

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>ポンサイ中等学校に図書館が建設され、研修を受けた5名の教員と15名の生徒により適切に運営され、1日あたり平均192名(全校生徒の18%)の利用がみられるようになった。このことから、ビエンチャン県において図書館活動が広がるための基礎ができ、プロジェクト目標の達成に近づいていると言える。</p> <p>ポンサイ中等学校に図書館が建設され、適切に運営されるようになる。</p>
(2) 事業内容	<p>1) 関係機関との協働枠組みの構築</p> <p>1-1 ビエンチャン県教育スポーツ局 (PESS) 1名、ポンホーン郡教育スポーツ局 (DESB) 2名、ポンサイ中等学校村教育開発委員会 (VEDC) 2名、計5名に対し、事業計画詳細の説明、期待される役割の確認、DESBとVEDCと当団体の三者で締結する協定書 (MoA) 案の説明を目的としたオリエンテーションワークショップを3月29日に開催した。 ※添付資料1参照</p> <p>1-2 ラオス国立図書館及び教育スポーツ省 (MoES) を講師に迎え、5月13~15日に、DESB職員4名に「図書館運営」「教育政策推進におけるVEDCの役割」について研修を実施した。日本より派遣した下田尊久専門家(図書館情報学)は日本の図書館事情を講義し、事業アドバイザーの小林毅氏は各講義が当団体の要望に沿うよう国立図書館及びMoES職員との調整を担った。 ※添付資料2参照</p> <p>1-3 ポンホーン郡DESBとVEDCと当団体が、本事業にかかわるそれぞれ責任と役割を明記した協定書 (MoA) を5月15日に締結した。</p> <p>1-4 上述1-2の研修を受けたDESBスタッフ4名が中心となりVEDCメンバー9名に対して、「VEDCの役割・意義・責務・組織構成」「学校図書館の役割・意義・持続可能な運営」について講義し、ポンサイ中等学校の学校図書館をVEDCがどのように支援するかを検討する研修を8月8~9日に実施した。 ※添付資料3参照</p> <p>上記の活動により、PESS、DESB、VEDCとの協働枠組みを構築した。</p> <p>2) 図書館の建設</p> <p>2-1 建設業者をヴィエンマイ建設会社に選定し、契約締結後、図書館建物の建設工事を実施した。施工監理の専門員として、ラオス人建築家Vannavong氏と契約し、工事進捗状況を報告させた。また、建築家野口朝夫を日本から6回派遣し、設計・工事調整をおこなった。 ※添付資料4・5参照</p> <p>この結果、計画通りに、床面積120㎡、78席、本棚10台規模の図書館建設が完了した。</p> <p>2-2 生徒・教員から読みたい本について聴きとりを行い、ニーズに合わせた図書を選定すると共に、教科書やカリキュラムに適した本を選んだ。蔵書は合計3,005冊となり、うち89%がラオス語、10%がタイ語、1%が英語の書籍となった。</p> <p>3) 教員及び生徒のトレーニング</p> <p>3-1 学校図書館のイメージ造りのために、校長・副校長・VEDC代表とポンホーン郡DESB職員が、先行のN連事業で開設したビエンチャン都ポントーン中学校の図書館を5月15日に訪問した。</p> <p>3-2 学校が選定した図書館担当教員5名と図書館ボランティアの生徒15名を対象に、ラオス国立図書館とともに「図書館運営研修」を2回実施した。</p> <p>第1回目は10月2~4日、第2回目は10月30~31日に実施し、図書の登録、貸出・返却方法、入館者記録、図書カードの作成などの図書館の管理運営を教授した。また、生徒が図書に親しむ方</p>

	<p>法として、読み聞かせ・劇・暗唱・輪読・本を利用したゲーム・ブックトークなどの手法を伝授した。 ※添付資料 6・7 参照</p> <p>下田専門家には、「図書の分類と配架」「図書館展示」「授業と学校図書館の関係づくり」についてのアドバイスをいただいた。</p> <p>上記活動により、図書館を知らなかった教員に対し、図書館運営の基礎と実践を伝え、同時に、運営をサポートする図書館ボランティアの生徒を育成した。</p> <p>4) モニタリングと評価</p> <p>4-1 事業開始後、1～2 か月に一度の割合で当会が学校を視察し、校長・図書館担当教員・VEDC 等の関係メンバーに面会し、事業進捗のモニタリングをおこなった。11 月 1 日に図書館引渡式を開催し（※添付書類 8 参照）、開設後は運営状況をモニターした。</p> <p>4-2 1 月 10・13 日に、図書館入館記録や図書貸出記録をまとめ、校長・副校長・VEDC メンバー・図書館担当教員・図書館ボランティア生徒・一般生徒、合計 34 名に対し図書館の運営状況や活用状況に関するインタビュー調査をおこなった。 ※添付書類 9 参照</p> <p>評価分析にあたり下田専門家と小林専門家を日本から派遣し、その結果を基に、2 月 24 日に評価会議を開催した。ラオス外務省・教育スポーツ省・ビエンチャン県庁・PESS・ポンホーン郡役場・DESB・副校長・図書館担当教員・VEDC 合計 19 名と共に、事業の実施と成果について検証した。 ※添付書類 10 参照</p> <p>評価会議後、PESS・DESB・副校長・図書館担当教員・VEDC 代表が参加したワークショップを実施し、次年度のポンサイ中学校図書館の運営計画（資金計画を含む）の検討をおこなった。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>活動 1) 関係機関との協働枠組みの構築</p> <p>成果(1) <u>村教育開発委員会が図書館活動をサポートする体制ができる</u></p> <p>ラオス国立図書館及び教育スポーツ省と共に実施した研修（活動 1-2）に参加したポンホーン郡 DESB スタッフ 4 名が、VEDC メンバー向けの研修を担った（活動 1-4）。このことから、指標(1-1)「対象郡の教育局担当者が、村教育開発委員会に対し、図書館整備を含む学校改善計画の策定のための指導ができるようになる」は達成されたといえる。</p> <p>指標(1-2)「村教育開発委員会により図書館運営計画が作成される」については、VEDC 向け研修（活動 1-4）に全メンバー 9 名の参加があり、VEDC が学校図書館をサポートするという合意形成ができた。VEDC メンバーへのインタビュー調査（活動 4-2）において、「学校図書館の設置や運営を支援することは村教育開発委員会の役割か」の問いに、9 名中 7 名が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。</p> <p>「図書館運営計画」は、2019 年度に策定されたポンサイ中学校開発計画のなかで言及されている。活動 4-2 のワークショップでは予算を含めた VEDC の今後のサポート内容が検討され、2020 年度は更に詳細な「図書館運営計画」が策定される見込みである。</p> <p>活動 2) 図書館の建設</p> <p>成果(2) <u>十分な設備が整った図書館が開設され運用されるようになる</u></p> <p>十分な設備が整った図書館を建設するために、現地の適切な建設会社を選定・契約し、施工監理専門人員を配置し、建設業者・施工監理者ともに報告書の提出を義務付け、進捗状況を随時把握して着実に事業をすすめた。（活動 2-1, 2-2）その結果、ラオスの中学校図書館としては大規模の、床面積 120 m²、78 席、本棚 10 台、蔵書数 3,005 冊規模の図書館を開設することができた。</p>

	<p>活動 3) 教員と生徒のトレーニング</p> <p>成果(3) <u>開設した図書館が生徒に十分に活用されるようになる</u></p> <p>指標(3-1)「一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の8%になる」については、入館記録によると、一日あたり192人の利用があり、全校生徒の18%になることから、十分に達成されている。指標(3-2)「一日あたりの平均図書貸出数が図書館利用人数の20%になる」は、22%の実績値となり、同じく達成された。指標(3-3)「研修を受けた教員が図書館運営方法や授業での図書館活用法を理解する」は、図書館担当教員5名へのインタビュー調査で検証した。図書館研修(活動3-2)に対する満足度を質問したところ、全員が「とてもよかった」「よかった」と回答した。特に役立った研修の問いに対しては、「図書の登録・分類」「図書の貸出・返却」「図書の配架」「図書館の運営(規則・運営計画・記録)」など図書館運営に関するものが上位に挙がった。さらに「図書を活用した授業や読書推進活動を実施しているか」の質問に対し、5名の全担当教員が「実施している」と回答した。これらのことから、研修を受けた教員達は運営方法を理解し、積極的に授業に図書館を活用していることが伺え、指標が達成されている。 ※添付資料11参照</p> <p>活動 4) モニタリングと評価</p> <p>成果(4) <u>学校図書館が期待通りに運営されるようになる</u></p> <p>当団体の図書館視察時における面会や状況聴き取り、評価会議への参加状況から、指標(4-1)「校長、村教育開発委員会が事業進捗のモニタリングに参加する」は達成されたと考えられる。指標(4-2)「次年度の図書館運営計画(資金計画を含む)が策定される」は、ラオスの学校は9月から新年度となることから、本事業終了時には2020年度の運営計画は未策定であるが、2月24日実施のワークショップ(活動4-2)で具体的内容が検討されており、達成が見込まれる。</p> <p>当該事業は「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4「すべての人に包括かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に該当し、細分化ターゲットの「4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い中等教育を修了できるようにする」に対し、授業での図書館活用という面で貢献している。また、本事業で図書館が整備されたことにより本を読む機会が増えたことと、数学などの教科書や問題集を閲覧する生徒が多くいることから、「4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする」にも成果をもたらしているといえる。</p>
(4) 持続発展性	<p>インタビュー調査によると、図書館当番のシフト作成や、図書紛失予防のための配架の工夫、貸出規則の改定など、図書館担当教員や校長・副校長が図書館の運営方法や運営体制を自ら考えて実践している様子がうかがえた。</p> <p>今後もこの状態を維持し、図書館担当教員と図書館ボランティアの生徒を継続的に確保し自主的な運営を促したうえで、校長・副校長が村教育開発委員会(VEDC)と連携をとりながら、学校開発計画のなかで、予算を含めた図書館運営計画について策定し、VEDCによるサポート体制を構築していくことで、持続発展性が担保できると考える。</p>